

先週 19 日(金)から昨日、また今朝も、ニュースや報道番組、新聞では連日、野球の大リーグ、エンゼルスの大谷翔平選手のアメリカン・リーグ最優秀選手賞 Most Valuable Player=MVP の荣誉に輝かれたことが報じられています。投げる、打つ、走る。投打の「二刀流」を貫いての歴史的な偉業と報じられ、地元アメリカは勿論のこと、日本中が歓喜と大谷選手に対する敬意であふれています。

大谷選手は、中学時代には球速・時速 130 キロ台をマーク、高校時代には自ら大リーグで活躍する姿を思い描き「世界最高のプレーヤーになる」と紙に書いたといいます。岩手県花巻東高校で文武両道を貫徹し、プロ野球日本ハムファイターズを経て、アメリカ球界に入り、高い目標を実現し続けてきました。先日のインタビューで「MVP を取って終わりという意識はみじんもありませんでした。常に前の日の自分を超越するという考え方で日々生活を送っていました」とこの一年を振り返っていました。

いつも笑顔絶やさずニコニコとして、チームの中で人に優しく接する姿がテレビを通して伺えます。アメリカでも、数々の快挙を果たしても謙虚で、常に礼儀正しく、グラウンドのごみ拾いを率先して行う等、周りの選手らの手本であり続けた大谷選手。自分がプレーして成果を上げるために、支えてくださっているご両親、指導者、球団関係者、そして何よりも期待をもって声援を送り続けてくださっているファンの皆さんへの感謝の言葉を、これまで幾度となく耳にしてきました。プロになり、けがや手術も経験し、その厳しくつらい経験をさらなる高みに向かう心の糧にして常に前に進む。そして、自分が努力し汗を流し、活躍できるグラウンドへの思いが、大リーガーとなった今も、高校時代から変わることのない、自然とグラウンドのごみを拾うという行動に繋がっているのです。

新聞各社が大一面に『大谷「満票」MVP』、『世界のショウヘイ 偉業』と大きく見出しを見て嬉しく思うと同時に、中学校、高等学校時代にご指導された先生方のインタビューから、大谷選手の貪欲に高みを目指す姿勢の礎は中高時代にあったことを改めて知りました。慢心せず「自分を超越る」を今も心に刻み来年を見据える大谷選手に敬意を表するとともに、皆さんにも、可能性は無限大にあることを伝えたく思いました。

先週の水曜日、本校の永守理事長先生から「夢をカタチに」というテーマで、高校 2 年生の皆さんと高校 3 年生の希望者の皆さんに初めての講演会が開催されました。先生は、1973 年 7 月 23 日、28 歳で日本電産株式会社をお仲間 3 名と共に設立。そして、世界で最高で最強のモーター会社を作り、将来世界に廉価で性能の高いモーターを世界中に供給することを目標として、これまで 48 年間懸命に世界に貢献する企業を率いてこられました。今では、日本電産は世界 40 カ国以上、11 万人以上の社員の皆様と共に成長し続けるグローバル企業のトップとして日々お仕事に励んでおられます。

今回のお話で、理事長ご自身の中学・高等学校、また大学時代を振り返られ、恩師との出会いと学び、そしてひとり一人にはみんな才能があること、その才能を磨き続ける気持ちをあきらめないことが、いずれ自分の生き方に自信を持ち、この世の中を明るくする人として成長することができることを教えてくださいました。

講演会に参加した生徒の皆さんからの感想文を読みました。感想文をご紹介します。

(感想文)

僕は数日前から楽しみにしていた理事長先生のご講演を拝聴できて嬉しかったです。努力の大切さを改めて知ったと共に、たくさんの素晴らしい考えに感銘を受けました。まだまだこれから大逆転を起こせると心に決め、まず、自分のやりたいことを明確にしたいです。永守先生のお話はこれからの私の人生で大きな影響を与えるであろうと感じています。

良い大学に入り、大企業に入社することだけが成功なのではなく、これからの実力社会の中で生き抜いていくために、専門性を身に付け、世の中の変化についていく力を身につけることが如何に大切であることか、とつくづく感じました。永守先生のご講演の 50 分間がとても短く感じてしまうほど、人を惹きつけるトーク力や先生のモットーである「すぐやる、必ずやる、出来るまでやる」は自分自身をやる気にさせてくれました。これからの社会を生きる者として、私の歩みに役立てていき社会に貢献できる人間になれるように努力します。そして、4 年後、日本電産株式会社に入社いたします。

みなさん。今の感想文にもありましたように、皆さん、気持ち一つです。大谷選手も高校時代に「世界最高のプレーヤーになる」と紙に書いたのです。私はこれまで 37 年間、この学校で一万人以上の生徒の皆さんに対して、自分自身の明るい将来に向けて本気で行動すれば、その本気こそが明るい社会の担い手となる、ということ言い続けて参りました。そして、卒業して立派にプロとして活躍なさっています。それが私の誇りであり、本校の誇りなのです。ですから、「いつか、プロ! 今、本気!!」なのです。このいつか、に皆さんの目標を書くのです。永守理事長先生にも、山本先生にも、李先生にも中学校、高校時代がありました。大谷選手にも中学校高校時代がありました。みなさんお一人お一人の「夢をなしとげる力」は今、ここ、京都先端科学大学附属中学校高等学校の一日一日の生活から培われていくのです。

みなさん、来週から定期試験が始まります。高校三年生、更なる高みの舞台で活躍するために、人生の節目となる高校生活最後の定期試験。満点でフィニッシュしましょう。中学一年生から高校二年生は、この試験が来年 4 月を迎える新たな学年に向けての自分の姿勢そのものなのです。先生から示された試験範囲、100%クリアしましょう。高みの目標を KUAS ノートに書く。そして「すぐやる! 必ずやる! できるまでやる!!」も書く。ならば満点間違いなしです。自分自身納得のいく成果を収めて 12 月を迎えましょう。Best を尽くす皆さんに期待します。終わります。ありがとうございました。